



英語の学び方が変わった!

一人ひとりの目標、学習可能時間に応じて、AIが個別の学習カリキュラムを作成。

今までは...

- 英作文などの課題を先生に提出
→先生が添削後、手渡して返す
- 授業でのペアワークや教科書などの音読



自分のレベルに合わせた
学習が可能!



自分の興味関心に合わせた
テーマ・英語素材での学習

英語への抵抗感を軽減できる!

こう変わった!

- タブレットで英作文→AIが添削、修正箇所やお手本の文章を教えてくれる
- 自宅等でタブレットやスマホを使ってAIと英語で会話(レベルに応じてシチュエーションの変化などもあり)



日常会話を想定したレッスンで、英語でのやり取りに慣れるトレーニングを実施
AIが「会話の目的」「会話の継続」「語彙・表現」を評価し、フィードバックを提供。

AIが相手なので恥ずかしくない!

※令和7年度は希望校で活用されています。

学びはこんなふうに変わっています!

学校では、日々変わり続ける環境や子どもたちに対応するため、デジタル技術の活用などによる新たな取組を進めています。ほんの一例ではありますが、今回はその中からいくつか取組をご紹介します!



先生の採点方法が変わった!

今までは...

- 紙でテストを実施、回収
→先生が手作業で採点、授業中に返却

こう変わった!

- 紙でテストを実施→答案をシステムに取り込む→システム上で採点(選択問題や数式問題は自動採点)→ネットで生徒のマイページに返却も可能
- マイページでは成績分析も見られる!過去の結果も卒業まで閲覧可能



解答欄が自動判別され、設問ごとの採点が可能。
選択問題や数式問題はAIによる自動採点が可能なため、採点時間の短縮に!



体験学習のあり方が変わった!

今までは...

- 体験場所が遠方だったり、外で実習を行っていたりしたため、事前学習が難しかったり、天候に左右されたりすることも多かった

こう変わった!

- 校内でいつでも、遠く離れた場所の体験や、実習を行うことが可能に
- 事前学習ができて深みや安全性が増した!



◀弘前第一養護学校のプロジェクションVR
修学旅行で行った大阪のテーマパークでの様子を投影。その場にいなくても実際に行ったような気分を味わうことができます。

五所川原農林高校の重機シミュレータ

本物の重機を操作する前に仮想空間で体験を重ねることで、より安全かつ効率的に実践的なスキルを身に付けることができます。





防災×高校生のちから ~その一歩が、誰かを救う~

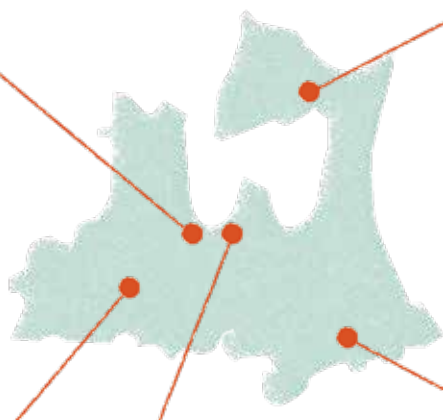
県教育委員会では、令和6年度から2か年で「高等学校における防災教育推進事業」を実施し、実践校において、地域の防災関連施設等の視察や外部講師を活用した学習、地域と連携した避難所運営訓練などを行い、防災について正しく学び、地域社会の一員として安全な社会づくりに貢献できる「共助・公助」の資質・能力の育成に取り組んでいます。また、実践校での取組や成果を記録集にまとめ、その普及に努めています。

実践校の取組の一例

青森北高等学校

避難所受入想定訓練

学校に地域住民が避難してくることを想定した訓練を行いました。その後、アルファ化米の試食や段ボールベッド製作など地域住民と一緒に体験活動を行いました。



下北BOUSAIネットワーク(下北管内県立学校5校)

田名部・大湊・大間・むつ工業高等学校 むつ養護学校

岩手県宮古市田老研修

ガイドの方から「万里の長城」と呼ばれていた防潮堤を越えた津波とその被害を聞き、「田老の津波石」や震災遺構「たろう観光ホテル」の見学を通して、田老地区の津波被害について学びました。



弘前南高等学校

出前講座(中学校)

これまでの防災学習や避難所運営訓練などから得られた知識をもとに出前講座を実施しました。中学生と一緒に段ボールベッドや簡易トイレの作成にも取り組みました。



青森工業高等学校

炊き出し訓練

防衛省自衛隊青森地方協力本部協力のもと、全校生徒・教職員約600人を被災者と想定した炊き出し訓練を行いました。



名久井農業高等学校

防災研修会

防災士を講師として招き、本校農場にある物品を活用したベッド製作や新聞紙を使ったスリッパ製作、学校にある食材や加工品を活用した炊事訓練を行いました。



あおり高校生防災サミット 実践校の生徒同士が意見交換を行い、防災に関する学びを深めました!

講義「災害・防災とは」

東北大学災害科学国際研究所
准教授 佐藤 翔輔 氏

「災害とは何か?」という問いかけから、地震や降水量などの詳細なデータを明示しながら、「災害」の定義について分かりやすく解説していただきました。



実践発表・避難所体験

実践発表では、各実践校が取り組んできた防災学習について、ポスターやスライドを用いた発表を行いました。

避難所体験では、シェルターテントや段ボールベッド、防災リュックなどの展示や体験を行いました。



防災ワークショップ

生徒がファシリテーターとなり、カードゲームを用いて防災知識や災害発生時の行動などについて楽しく学びました。

また、グループごとに防災に関するピクトグラムづくりにも取り組みました。



演習

「防災に関する学びを深めるために私たちができることは何か?」

他校の生徒同士で演習班をつくり、様々な意見交換を行い、防災に関する学びを深めるとともに、防災学習の新たなアイデアを提案しました。



教職員視察研修

実践校での防災教育を推進する教職員の資質向上を図ることを目的に、宮城県の先進的な防災教育を行っている高等学校や大学のほか、震災により大きな被害を受けた地域や震災遺構の視察研修を行いました。

●多賀城高等学校災害科学科
多賀城津波伝承「まち歩き」



●石巻市震災遺構大川小学校
大川伝承の会語り部ガイド



防災教育推進事業で得られた成果の普及

高等学校

地域の災害リスクに応じた防災教育に取り組むとともに、大規模災害を想定した実践的な避難訓練や地域と連携した避難所運営訓練を実践する際に、令和6年度実践記録集をご活用ください。

小・中学校

令和3~5年度に実施した「命を守る! 防災教育推進事業」防災教育実践事例集をご活用ください。



記録集の内容は
コチラから



事例集の内容は
コチラから



読書で広がる あおもりっこの未来 ~みんなで読書に親しみましょう~

こどもの読書活動は「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊か」にします。
あおもりっこの未来がさらに広がっていくよう、こどもの読書活動を推進します!

青森県こども読書活動
推進計画(第五次)を
策定しました



県教育委員会が令和7年2月に策定した「青森県こども読書活動推進計画(第五次)」では、活動推進に興味・関心を持ってもらうために「読書で広がる あおもりっこの未来」というキャッチフレーズを設定しました。「不読率の低減」を始めとした4つの基本方針のもとで、社会全体でこどもの自主的な読書活動を推進します!

第五次計画の
詳細はコチラから



家庭・学校・図書館などでできる読書活動

身近なところから読書にふれてみませんか?

家庭

- 読み聞かせ
- こどもと一緒に本を読む など

県ではこんなことやってます

- 啓発小冊子
『絵本でゆたかな親子の時間』
絵本から読書、はじめてみませんか?
(各市町村で「ブックスタート」として実施)



学校

- 全校一斉の読書活動等
- 生徒による学校図書館だより など

読書に親しむ活動(例)

- ブックトーク…ジャンルの異なる本を1つのテーマに沿って紹介する
- 味見読書…短時間で試し読みした後で、一番読みたくなった本を紹介し合う

地域(図書館)

- 障がいのあるこども、日本語が母語でないこども、図書館への来館が難しいこども等が読書する機会をつくる など



アクセシブルな書籍

民間団体

- 小・中学校等への図書への贈呈
- 読書会・読み聞かせの実施 など



小学校での読み聞かせ

こどもたちの読書活動

県教委では、心に残る本とみなさんとの出会いを様々な形で応援しています。

あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

- 仲間や友だちなどに薦めたい本の紹介文を募集します。字数は200~300字!
- 最優秀賞は図書カード10,000円分!

こどもの読書活動推進大会

- 日時 12月13日(土)13:00~16:00
 - 場所 HOCコネクT(八戸市)
- 今年も有名な作家による講演があります。
講演者は、瀬尾 まいこさんです!



※主な作品

- 『そして、バトンは渡された』
- 『夜明けのすべて』
- 『ありが』ほか

推進事業の
詳細はコチラから



関 生涯学習課企画振興グループ
TEL.017-734-9889

高等学校等予約奨学生募集

~高校進学前に奨学金を予約する制度です~

- 対象 保護者が青森県の住民で、令和8年4月に高等学校等へ進学を希望する中学3年生
- 募集人員 約500人
- 貸与月額 次のうち、必要に応じて希望する金額(無利子)
ア:18,000円 イ:23,000円
ウ:30,000円 エ:35,000円
- 返 還 貸与終了後1年据置、貸与期間の3倍の期間内に全額返還(3年間借りた場合は9年間で返還)
通学費及び下宿費等の一部返還免除制度があります。
また、失業等で返還が困難になった場合は、返還猶予制度があります。

- 申込方法 県内の各中学校にある「予約申込書」と添付書類を在学する中学校が指定する日までに同校へ提出してください。
- 締 切 各中学校から公益財団法人青森県育英奨学会への締切は9月10日(水)必着
- 問合せ先 在学する学校

※高校進学後の学費等がどれくらいかかるかわからない等、家計に不安がある場合や、特に県外の高校への進学を検討されている方は、進学後の申込期間が短くなるため、申込手続きに余裕のある予約奨学生に申し込まれることをおすすめします。

詳細は
コチラから



大学入学時奨学生募集

~大学入学準備に必要な経費に充てるための奨学金制度です~

- 対象 以下の①から④のすべてに該当する高校生、高等専門学校生等
①保護者が青森県の住民
②令和8年4月に大学(通信制・短期大学を除く)の第1学年に入学見込
③生活保護受給世帯もしくは市町村民税所得割非課税世帯又は児童養護施設等入所者
④大学出願用調査書の評定平均値が4.0以上(児童養護施設等入所者等は3.5以上)
- 貸与額 10万円を単位とし、60万円以内の必要な金額(無利子)
- 貸与時期 大学の合格発表後、高校等在学中に一括で貸与(令和7年10月から令和8年3月までの間)
- 返 還 大学卒業後又は退学した月の翌月から起算して1年経過後8年以内に全額返還(無利子)

- 返還免除 大学を卒業後1年以内に青森県内に居住及び就業(公務員を除く。)し、引き続き3年を経過した場合、願い出により奨学金の返還が免除されます。

- 申込方法 県内の各高等学校等にある「大学入学時奨学金申込書」と添付書類を、在学する学校が指定する日までに同校へ提出してください。

申込期間

| | 募集期間 | 採用者数 | 採用予定 |
|-------|-----------------------|-------|------|
| 第1次募集 | 令和7年 7月14日~令和7年 9月10日 | 20人程度 | 10月 |
| 第2次募集 | 令和7年 9月11日~令和7年12月10日 | 10人程度 | 1月 |

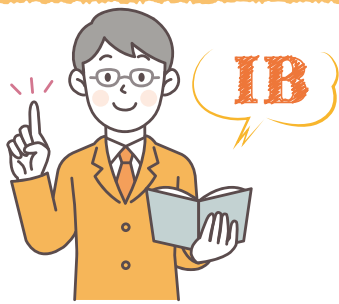
- 問合せ先 在学する学校

※申込の条件に合う方で、大学進学のための準備費用に不安がある場合は、進学先の大学がはっきり決まっていなくても、申し込みされることをおすすめします。採用後に、進路変更等で奨学金が不要になる場合は、辞退することもできます。

詳細は
コチラから



私たち、
こんな活動
しています!



青森南高校のIBの学びの特長の紹介

青森南高校のグローバル探究科において、国外の大学を含む多くの大学入試で活用できる大学入学資格(IB資格)が取得可能なIBコースが設置されました。

IBの魅力はIB資格の取得だけでなく、学び方にも次のような特長があります!!

※次に挙げる特長はIBの学びにおける一般的なものです。青森南高校の教育内容は学校HP等でご確認ください。

特長 1 自ら学ぶ

IBでは、探究的な学びを大切にしています。学ぶ中で生まれた疑問について、自ら課題を設定し、調べたり、観測したりして、自分なりの答えを導くため、教科の枠を超えて自分自身の持つ知識を生かしたり、経験を生かしたりするなど、「問い」や「答えへのアプローチ」を自分で決めることができます。

特長 2 チームで学ぶ

IBでは、チームで協働しながら学ぶ機会が多くあります。例えば、討論等を通じて、他の人のものの見方に触れ、自分自身のものの見方を認識し振り返る活動や、それぞれの得意分野を生かし、協力しながらプロジェクトの達成を目指す活動などがあります。



特長 3 学びを実生活で活用する

IBでは、学びを通じて得た知識を自分なりに表現したり、実践したりすることを大切にします。例えば、オリジナルの作品やパフォーマンスの創作、健康的なライフスタイルにつながる身体的な活動の実施、コミュニティーのニーズに応えるボランティア活動への参画などがあります。



さて、IB教育について興味を持っていただけでしょうか?

そんな方々のために県教育委員会では、IB教育の理解を深めていただけるよう、IB教育シンポジウムを開催する予定です!!

シンポジウムの詳細については、決まり次第、お知らせします。

2023年10月号の教育広報あもりけんでも、IB教育について簡単にご紹介しました。もう一度ご覧になりたい方はこちらでチェック!



お知らせ

X・Instagramでも
情報発信中!



青森県立郷土館

「土曜セミナー」

郷土館職員が、郷土の歴史や文化、自然などをテーマにして楽しくわかりやすくお話しする講座です。どなたでも受講できます。なお、当セミナーは「あもり県民カレッジ」の単位取得講座(1回2単位)です。

●開催日時・テーマ 各回13:30~15:00

7月19日(土) 「初めての人のための忍者講座ーみちのくの忍び達の実像を求めてー」

8月30日(土) 「菅江真澄も見た! イザベラ・バードも聞いた! 北奥の奇習!! 木の上で暮らす謎の若者たち」

9月20日(土) 「コケの魅力」

10月18日(土) 「米作りの歴史~イネ・米・稲作についてくわしく学ぼう!」

11月8日(土) 「戦争と青森の科学者たち」

●会場 青森県総合社会教育センター4階 第2多目的研修室

●定員 40人(先着順) 当日受付 会場にて13:00から

●受講料 無料

青森県立郷土館共催展

「写真でたどる

津軽なつかしの風景」

昭和30~40年代に津軽地方で撮影された写真により、かつてあったなつかしい農村や町並みの風景を紹介します。



●開催日時 7月25日(土)~8月24日(日)9:00~16:30

●休館日 月曜日(祝日にあたるときは翌平日)

●場所 常盤ふるさと資料館あすか

●入場料 無料

〈お問い合わせ先〉

青森県立郷土館
TEL:017-777-1585(平日9:00~17:00)



図書館からのお知らせ

おはなし会

読み聞かせボランティアと図書館職員による絵本の読み聞かせや、子どもたちからリクエストのあった絵本の紹介を行います。

●日時 8月9日(土)、9月13日(土)、10月11日(土)

時間は各日とも14:00~14:30です。

●場所 青森県立図書館1階児童閲覧室おはなしコーナー

おしえて先生! 知るしるする探検隊

科学の実験やいろいろな仕事の人との交流、スポーツなどの体験、本の紹介などを行います。

●日時

7月26日(土) テーマ「土器って何? どうやって見つけるの? &縄文しおりをつくろう!」

8月23日(土) テーマ「棟方志功の「はなが」を見てみよう!」

9月27日(土) テーマ「てつどうのおしごと」

時間は14:00~14:30です(7月26日は14:00~15:00)。

●場所 青森県立図書館1階児童閲覧室おはなしコーナー

〈お問い合わせ先〉

青森県立図書館 TEL:017-739-4311

<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/>



特別展「棟方志功と青森の文人たち」開催!

板画家・棟方志功は文学が好きで、文人たちとも広く交流していました。

この展示では没後50年を迎える棟方志功と、青森の文人たちとの交流について紹介します!

●期間 7月19日(土)~10月19日(日)

●場所 青森県近代文学館(青森県立図書館2階) 棟方志功最初の装幀本「屋座図」

〈お問い合わせ先〉

青森県近代文学館 TEL:017-739-2575

<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/bungakukan/>



スポーツ体験型イベント開催

青森県教育委員会では、レクリエーション志向で楽しく体を動かしたい、仲間と一緒に運動を楽しみたい子どもたちの運動を習慣化させるきっかけづくりのため、運動やスポーツの楽しさを実感できる体験型イベントを開催します。

●開催日

(1)南部山健康運動センター(八戸市) 9月27日(土) 10:00~15:00

(2)弘前市民体育館(弘前市) 10月11日(土) 10:00~15:00

●対象 乳幼児から小学生まで(保護者の方も歓迎です!)

〈お問い合わせ先〉

スポーツ健康課スポーツ振興グループ

TEL:017-734-9909



「あもりスポーツアカデミー事業」 令和8年度生募集中!

国民スポーツ大会等の全国大会やオリンピック等の世界大会で活躍が期待できる、将来有望なジュニアアスリートを発掘するため、選考会(運動能力測定会)を実施します。

選考された児童は、次年度以降、トップアスリートを目指す上で必要となる知識・能力等を育成するプログラムに参加します。自分の可能性にチャレンジしてみませんか?



●対象 県内在住の小学校4年生と6年生の児童

●参加料 無料

●測定項目 ①身長・体重、②長座体前屈、③メディシンボール前投げ、④立ち幅跳び、⑤立ち三段跳び、⑥反復横跳び、⑦20m走、⑧10mシャトルラン

●日時・場所

①令和7年8月30日(土)・31日(日)

マエダアリーナ

②令和7年9月13日(土)・14日(日)

おいらせ町民交流センター

③令和7年9月20日(土)・21日(日)

青森県武道館

●申込期間 令和7年7月1日(火)~31日(木)

●申込方法 青森県スポーツ科学センターホームページ又は下記の二次元コードからお申し込みください。

※詳細・申込方法等については、各学校から配付されるリーフレットをご覧ください。



〈お問い合わせ先〉

青森県競技力向上対策本部

TEL:017-734-9177

<https://www.aiss.pref.aomori.jp>



種差少年自然の家からのお知らせ

親子の絆「防災キャンプ」

親子で避難所体験をしながら災害時に役立つ知識や技能を習得し、防災力の向上を図ります。

●期 日 9月27日(土)~28日(日)

●対象 小学3年生~中学生とその保護者、防災に関心のある方

●募集人員 親子10組30名

●内容 防災講話、炊き出し体験、防災レクなど

●募集期間 9月3日(水)~5日(金)

※詳しくはホームページをご覧ください。

〈お問い合わせ先〉

種差少年自然の家

<https://www.tanesashi.jp/index.html>



令和6年度いじめ防止標語コンクール 優秀賞作品

(優秀賞は6作品あり、毎号紹介しています)

「助けて」と 言えないあの子に 寄りそって

青森県立弘前実業高等学校 2年 葛西 莉央

ありがとう いまのことば わすれない

六ヶ所村立千歳平小学校 4年 佐藤 ほのか

※受賞当時の学校と学年です